

国際こども会議 実施計画

2017年10月12日更新
国際こども会議実行委員会

趣 旨

本国際会議を通して、参加国の子どもどうしが相互に意見を交換し、お互いの歴史や文化や習慣についての理解を深めることで、国を超えた相互理解を目指す。

国際こども会議 概要

1. 会議の運営

主催：「国際こども会議実行委員会」、スプラタルカ
後援：恩納村教育委員会

2. 開催期日

2017年10月22日（日曜日）

日本時間	15:00 – 17:00
台湾	14:00 – 16:00
タイ	13:00 – 15:00
インドネシア	13:00 – 15:00

3. 会議参加者（4カ国） *各国の希望者（有志）

- ① 恩納村小学生（日本）：恩納村内5・6年生児童（20名程度）
- ② 台南地域小学生（台湾）：主に善化國民小學 児童
<http://shes.dcs.tn.edu.tw/>
- ③ バンコク小学生（タイ）：主に Rachawinit 小学校 児童
<http://www.rachawinit.ac.th/>
- ④ ジョグジャカルタ小学生（インドネシア）：主に SDN Ungaran 1 Yogyakarta 小学校 児童
<https://www.facebook.com/sdnungaran1/>

4. 会議内容

テーマ：「国を超えてお互いを理解するには、どうしたらよいか？」
“How can we understand each other’s societies?”

5. 会議形式

- ビデオ通話を使った4ヶ所同時中継（大型スクリーンに映す）
- 会場を解放し、見学者は会議を自由に見学できる。ただし、参加国の状況によっては閉じた集まりであっても構わない。（日本側は自由見学とする。）

6. 会場

日本：恩納村博物館 1階研修室

台湾：善化國民小學（予定）

タイ：Rachawinit 小学校（予定）

インドネシア：SDN Ungaran 1 Yogyakarta 小学校（予定）

国際会議のプログラム構成

場面	時間	会議の流れ	会議の詳細
国や地域の紹介	15:00-15:01 (1分)	Ice Break タイム！ <全員>	参加者の緊張をほぐす。
	15:02-15:04 (2分)	各国司会者のあいさつ <各国司会者>	日本、台湾、タイ、インドネシアの順番で、各国ひとことのあいさつ。
	15:05-15:21 (発表3分、 質問1分。 各4分×4)	国や地域・学校の紹介 (日本、台湾、タイ、 インドネシア) <各国担当者>	最初にお互いを知るため、自分たちの国や地域、学校を簡単に紹介する。 ● 写真や映像を使う。(タブレット端末、印刷物も利用可) ● <u>事前に資料を交換</u> し、それぞれの会場でも問題なく紹介できるように準備する。 <u>ただし、会議参加者には知らせない。</u> (通訳やネットワークの問題を解消するため。) ● 他のグループから質問をする。
	15:22-15:25 (3分)	休憩	3分間の休憩（トイレ休憩）
各国代表意見交換	15:25-15:33 (通訳も含めて各2分×4)	意見の発表 (各国、ひとつの意見を発表する。) <各国担当者>	恩納村（日本）側から開始して、意見の発表を行う。 ● 事前にまとめた意見(国際理解についての具体的な方法やアイデア)を <u>ひとつ発表</u> する。 ● 発表は、担当児童(複数可)が基本的に母語で行い、通訳が英語に通訳する。 ● 説明用の写真や図を用意する。 ● <u>事前に資料を交換</u> し、それぞれの会場でも

			<p>紹介できるように準備する。<u>ただし、会議参加者には知らせない。</u>(通訳やネットワークの問題を解消するため。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 質問や意見はあとでやり取りする。(先に<u>4カ国の意見を集める</u>ため) ● 意見についての不明な点の確認は、このとき行う。
	15:35-16:05 (30分)	自由に質疑応答 <各国希望者>	<p>4カ国の意見が揃った後、自由に質疑応答を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>国を指定せず</u>、自由に質問を取る。(意見の活性化を図る。) ● 回答は、基本的に意見発表国の児童(他国の児童も、状況によっては可能) ● 質問者や質問の対象(意見)が一部に偏ってきたら、全体司会者が振り分ける。 ● 時間を見ながら、適当なところで切り上げる。
各自の 意見 交換	16:07-16:27 (20分)	個人的意見の発表 (まとめた意見以外の意見を求める。) <希望者>	<p>これら以外の個人的意見を求める。(新たな意見の発表と質疑応答。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人の意見をもとめる。 ● <u>国を指定せず</u>、自由に意見を取る。 ● 国を指定せず、自由に意見に対する質問を取る。 ● 回答は、基本的に意見発表者(他者も可能) ● 意見者や質問者が一部に偏ってきたら、全体司会者が振り分ける。 ● <u>会場(観客)からの意見</u>や質問も取り上げる。 ● 時間を見ながら、適当なところで切り上げる。
	16:30-16:31 (1分)	会議をまとめる <全体司会者>	最後に会議を簡単にまとめる。
	16:32-16:33 (1分)	国際会議終了のあいさつ <各国司会者>	<p>国際会議終了のあいさつ。</p> <p>*ビデオ通話の切断</p>
	16:35-16:38 (3分)	休憩	3分間の休憩(トイレ休憩)
まとめ	16:40-16:50	感想の発表とワーク	今日の会議について感想を述べる。(挙手方式)

	(10分)	シート記入 <全員、観客>	また、ワークシートに記入してまとめる。 ● 各会場（各国）別々に行く。（ビデオ通話は終了している。） ● 今回の会議について意見や感想を取る。 ● <u>会場（観客）からも</u> 意見や感想を取る。 ● ワークシートに自分の感想を書き込む。
	16:55-16:56 (1分)	国際会議終了のあいさつ <全体司会者>	会議の終了を伝える。 * 国際会議終了

事前準備

1. 児童各自に、国を超えてお互いが理解していく（いわゆる国際理解）ための具体的な方法やアイデアをノートやワークシートに記入させる。（1個以上）
 - 出来るだけ具体的なアイデアを求める。（抽象的なものではない。）
 - 実現できるかどうかは基準としない。（方向性を大切にする。）
 - 日本語で簡潔に記載し、通訳しやすいようにする。
 - 図もあったらよい。
2. その後、意見をまとめる。
 - グループ（国単位）としての意見としてひとつ選び、その発表を準備する。
 - 発表は、写真や図も用意する。図には英語の説明を加える。
 - 英語化は、基本的に行わない。通訳を前提とする。
 - グループとしての意見とは別に、各個人の意見も発表できるように準備しておく。
3. 司会（進行役）を一人もしくは二人決めておく（各国）* 児童
 - 自分たちの言葉で構わない。会議の進行を担当する。（通訳を前提。）
4. 地域の紹介役を決めておく（各国）
 - 数名で行う。自分たちの言葉で構わない。（通訳を前提。）
5. 地域の紹介資料を作る。（各国）
 - 図や写真を使った分かりやすい資料を作る。
6. 意見の発表役を決めておく（各国）
 - 2名程度で行う。自分たちの言葉で構わない。（通訳を前提。）
7. 意見の発表資料を作る。（各国）
 - 文字や図を使った分かりやすい資料を作る。

交流中の約束事

1. 相手の発表には、必ず質問や意見を返す。
2. 相手の意見や質問を理解しようと努める。質問や意見ではない、安易な価値判断は行わない。（悪い例：「それは間違い！」「それはおかしい。」）

意思疎通の流れ

1. 原則、お互いの母語で会議を進め、通訳を介して意思疎通を図る。
2. 時間的に余裕があれば、自分の意見を英語で用意する。
3. 意思疎通の流れは以下の通り。
「発表者（母語）」 → 「通訳（英語）」 →
→ <インターネット> → 「通訳（母語）」 → 「相手児童」
「質問者（母語）」 → 「通訳（英語）」 →
→ <インターネット> → 「通訳（母語）」 → 「相手児童」

----- * -----

国際会議開催までの日程（予定）

1. 8月7日（月）～9月22日（金） 参加児童・ボランティアスタッフ 募集期間
2. 9月23日（土）9:00 – 12:00 実行委員会開催、スタッフ打ち合わせ
3. 10月14日（土）8:30 – 12:00 事前研修（意見のまとめ、発表準備）
4. 10月22日（日）9:00 – 12:00 事前研修（発表練習、最終確認）
5. 10月22日（日）15:00 – 17:00 本会議開催

問い合わせ先

スプラタルカ

info@supratarka.org

<https://www.facebook.com/supratarka/>

<http://www.supratarka.org/>

以上